

授 業 科 目 名		スポーツ指導実習 (生涯スポーツ指導実習)		授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)				
担 当 教 員 名		前田（博）、中垣内、沼尾、北村、坂口			補助担当者名						
単 位 数		1単位（1週間）又は 2単位（2週間）	履修年次	3年次	受け入れ人数						
授 業 の 概 要		本実習では、将来のスポーツ指導者としての専門職に必要な理論の学習を基礎に、さらに、より実践的な指導力を育成するため、各専門領域に関連する実際のスポーツ指導現場での指導実習を実施することとしています。そこでは、実際のスポーツ現場における指導実習や生の体験を通して、学生の専門的な知識や指導技術を高め、ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法		到 達 目 標			成 績 評 価 の 方 法						
					授 業 期 間		定期	そ の 他	割合		
		授業	テスト	レポート	発表	試験	()	(%)			
		■ 認 知 的領域	・ 訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成). ・ 指導体験を記述・説明する（実習日誌の作成）. ・ 指導体験を分析・評価する（所感文等の作成）.					○		大学 評価	20
		■ 情 意 的領域	・ 事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる. ・ 指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる. ・ 実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる.			○				大学及 び実習 先評価	60
■ 技 能 的領域	・ ビジネスマナー及び一般常識を身につける. ・ 指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができ る			○				実習先 評価	20		
成績評価の基準		設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。									
テキスト、教材 参 考 書		①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」をWebClassを用いて配布。 参考図書は、授業時に推薦する。									
履 修 条 件 ・ 関 連 科 目		○「レジャー・レクリエーション論」または「施設・用具・プログラム論」のいずれか1科目（2単位）を修得していなければならない。 ○「生涯スポーツ論・演習Ⅰ」及び「生涯スポーツ論・実習Ⅱ」を履修しなければならない。		備考（教員メッセージ含む）	本実習は、原則として夏期休業中の1週間又は2週間とし、履修可能単位数は2単位（1単位最低5日間）、1単位だけ履修する場合は1週間（最低5日間）を2回実施します。また、実習に関するガイダンスを2年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、2年次後期のガイダンス等で確認してください。						
オフィス・アワー		各担当教員の研究室において、随時（月～金、9:00～17:00）。									
授 業 計 画											
回	授業担当者	授 業 内 容				授 業 時 間 外 の 指 導 等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	前田（博）、中垣内、北村、 坂口	【事前学習】									
2		① オリエンテーション：生涯スポーツ指導実習の意義・目的・内容				①WebClassにより復習					
3		② 訪問先の選択及び施設等研究				②実習先研究レポートの作成					
4		③ 事前準備（履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等）				③事前準備の資料等作成					
5		④ 生涯スポーツ関連講師による講和とレポート				④WebClass により復習					
6		【実習活動】									
7		⑤ 生涯スポーツ指導実習（2単位：2週間）				⑤実習日誌の作成					
8		【事後学習】									
		⑥ 生涯スポーツ指導体験の分析・評価及び今後の展望				⑥所感文の作成					
		⑦ 事後報告①（生涯スポーツ指導体験の発表会等）				⑦発表資料の作成					
		⑧ 事後報告②（生涯スポーツ指導体験の発表会等）				⑧WebClass により復習					